

## 国語

- 問一 1 平静 2 野次馬 3 満面 4 筋骨
- 問二 父親が行っている「こども飯」が偽善だという批判的な噂が、思っていた以上に広まっていることを知ったから。
- 問三 「偽善者」という落書きの言葉を否定しなかった矢島に失望し、苛立つ気持ち。
- 問四 クラスメイトの前で偽善者だと批判され、はずかしめを受けたのは自分ではなく、父親だったこと。
- 問五 食事を満足にとれない子どもたちがいることや、それを助けようとする父親が偽善者だと批判されていることをつらく思う気持ち。
- 問六 「こども飯」をやめてほしいという思いと、続けてほしいという思いが入り混じり、自分を振り回して困らせる父親に反発する気持ち。

- 出典は森沢明夫「おいしくて泣くとき」。

問二 「こたえた（こたえる）」は「年老いた身には真冬の寒さがこたえる」というように、「厳しく（強く）感じられる」という意味です。ここでは「慣れてはいた（経験はしていた）が、それでも」という意味の「さすがに」が付いていますので、傍線部全体では「慣れてはいたが、それでも厳しかった（ショックだった）」という意味を示していることになります。では、心也にとって何が「こたえた」のかを確認しましょう。最初の場面は、心也の机に「偽善者のムスコ」という落書きがされていた事件が描かれています。油性ペンで書かれた落書きを消すために、矢島先生からシンナーと雑巾を借りようと職員室へ向かう途中、心也は「『くそっ』 また、偽善者呼ばわりかよ——」と悔しさを噛みしめながら、これまで起きた出来事を思い返しています。食堂を営む父親が、貧困に苦しむ子どもたちに無料で食事を提供する「こども飯（子ども食堂）」の取り組みを始めて以来、店は心ない人々からの誹謗中傷（根拠のない悪口によって他者の名誉を傷つけること）にさらされるようになっていました。心也は「店にかかってきた電話に～ボールペンで『偽善者！』と書かれていたこともある」というつらい経験を何度もしていますので、「偽善者呼ばわり」されることは初めてではありません。言葉の暴力に多少は慣れていたわけですが、「中学一年生になったばかりの頃、クラスで最初に仲良くなった友人に『お前んち、偽善者の店って言われてるらしいぞ。知ってた？』」と言われたのは「さすがにこたえた」と振り返っています。匿名（自分が誰だか明かさない）の卑劣な誹謗中傷は何度か受けしていましたが、それまで交流のなかった（おそらくは「こども飯」の取り組みに何の興味もない）友人までが、そのことを知っていたということは、店に非難の声が寄せられているという噂が、心也の思っているよりも広まっているということを意味しています。偏見に凝り固まった無知な馬鹿者が数人さわいでいるだけだと思って耐えていた心也でしたが、そういう人種ではない普通の人（友人）が店への批判を知っていたという予想外の展開には「さすがに」驚き、ショックを隠せませんでした。

〈解答例〉

- ⑨ 〈父親が行っている「こども飯」が偽善だという批判的な噂が〉、⑥ 〈思っていた以上に広まっていることを知ったから〉。

問三 「ここでヤジさんに嘘をついても仕方がないし、事実を伝えた方がシンナーを貸してもらえる確率も高いと思った」心也から「ありのまま」を聞いた矢島は、仕方がないなどばかりに「眉毛をハの字にしてため息」をつき、「偽善者か……。なるほど。まあ、しかし、お前も大変だよな」と同情の言葉を口にします。それを聞いて、心也は「これまで俺がヤジさんに抱いていた『好感』の絶対量が、一気に半

減する」のを感じました。矢島から返ってきた「なるほど」という言葉に強く反発したことから考えれば、机に「偽善者のムスコ」と落書きされていたことを聞いた矢島が「どういうことだ? 誰がそんなことを書いたんだ?」と憤慨するのを心也が期待していたことは明らかです。ところが矢島は「偽善者か……。なるほど」と落書きの言葉をあっさりと受け入れてしまいました。「しかし、お前も大変だよな」という言葉からは、「こども飯」をめぐる一連の騒動は矢島の耳にも入っているということがうかがえます。その上で矢島は「なるほど」と言った。それはすなわち、矢島が心也の父親に対する「偽善者」という誹謗中傷を否定しなかったことを意味します。「は? 『なるほど』って、何だよ。ヤジさん、何で納得してるんだよ」と強い不満を抱いた心也は、わき起こる憤りとともに自分がこれまで矢島に抱いていた信頼や好感が一気に下がっていくのを感じています。

〈解答例〉

- ⑦ <「偽善者」という落書きの言葉を否定しなかった矢島に> ⑦ <失望し、苛立つ気持ち>

問四 「偽善者のムスコ」という「毒を孕んだ言葉。その落書き」を思い出しているうちに、心也は「胃のなかで、嫌な熱がとぐろを巻きはじめた」のを感じています。その正体が「怒り」であることを「認めた」心也は、「偽善者」もさることながら、それよりも「(偽善者の) ムスコ」という言葉の方に怒りの原因があることに気づきます。自分は偽善者本人ではなく、その「ムスコ」である。つまり「偽善者と罵られた(=批判された)」のは父親ということになる。自分ではなく、父親が「クラスメイトの前で吊るし上げられた(=はずかしめを受けた)」ということに気づいた心也は、不快な思いで「嫌な(怒りの) 熱を孕んだ息」を吐き出しています。この問い合わせについては「自分の言葉で説明しなさい」という条件が付されていますので、「罵られる」「吊るし上げられる」という比喩表現をそのまま解答に用いるのは避ける必要があると考えられます。

〈解答例〉

- ⑧ <クラスメイトの前で偽善者だと批判され、はずかしめを受けたのは> ⑥ <自分ではなく、父親だったこと>

問五 台風の猛烈な雨風にさらされて、「全部がどうでもよくなっちゃいそうなくらい」気分が高揚していく心也は、「バケツをひっくり返したようなこの雨が、ビンボーも、偽善者も、きれいさっぱり洗い流してくれればいいのに——」という自分の本心に気づきます。「ビンボー」は食事も満足にとれないほどの貧しさに苦しむ、石村や夕花のような子どもたちの存在を意味しています。石村が「(こども飯を) 食べているところをたまたま俺に見られて、やたらと恨めしそうに顔を歪めた」のは、貧しさゆえに、施し(情けや恵み)を受けなければ生きていけない、みじめな姿を心也に見られて、恥ずかしさ、屈辱を強く感じたからです。貧しさは、空腹という身体のつらさだけでなく、精神的なつらさをも、もたらします。そして、貧困に苦しむ子どもたちを救おうと立ち上がった心也の父親は、「偽善者」という言葉でその志を傷つけられている。心也はその両者にはさまれるような位置で、自分が(「泣きたい気分」になりながら) ただただ心を痛めるばかりで、どうすることもできずに立ちすくんでいたことに気がついています。

〈解答例〉

- ⑤ <食事を満足にとれない子どもたちがいることや、> ⑤ <それを助けようとする父親が偽善者だと批判されていることを> ⑤ <つらく思う気持ち>

問六 最後の場面では「こども飯」を続けている父親の本心が明かされます。「こども飯」をやめてほしいという心也の思いを静かに受けとめた父親は、「死んだ母ちゃんの教えどおり、俺は自分の意思を尊重しながら生きる。やりたいようにやる」と言い、「ニヤリと笑って」ビールをあおります。ところが、「やっぱり、俺の意見は流されるってことか」と思ってがっかりする心也に向かって、父親は「心也が不幸になると、自動的に俺も不幸になっちまう」「だから、心也が不幸になるんだったら、俺は『こども飯』をやめるよ」と、思いがけないことを口にします。誹謗中傷に苦しみ続ける「胃が痛くなるような未来を想像」していた心也には朗報のはずです。けれども、「いざ父が賛成してくれたら」「胸の奥のもやもや」が「息苦しいほど」に「膨張して」くるのを感じた心也は、自分が本当は「こども飯」をやめてほしくないと思っていたことに気づきます。父親が「こども飯」をやめてくれれば、心也が誹謗中傷で傷つくことはなくなります。でも、「どこぞの部外者の言葉に屈して『こども飯』サービスをあきらめて、「子どもたちが来なくなったりこの食堂と、そうなった店に学校から帰ってくる自分のこと」を想像するまでもなく、そういう話をするだけで「胃のあたりが重くなっていた」心也は、「こども飯」が続くことを願っている。それなのに、父親は心也のためなら「こども飯」をやめてもよいと考えている。空腹に苦しむ子どもたちの助けになりたいという志が偽善であろうはずがないことは、息子である心也が一番よくわかっている。「誹謗中傷を受けるのはつらい。でも『こども飯』をやめて欲しくはない。どうすればいいか分からぬ。しかも、父は俺のためなら『こども飯』をやめるとまで言っている……」。心也の心は千々に乱れます。どうしたらいいか分からなくなった心也は、息子を混乱させたことなど我関せずで、「美味かったか?」と呑気に問いかける父親に向かって、「まずかった」と嘘をつき、ささやかな抗議の意を示します。「俺をさんざん困らせておいて、何が『美味かったか?』だよ」。しかし、心也の精一杯の抵抗も、「(母ちゃんも、お前も、) 嘘をつくのが下手すぎなんだよなあ」と笑う父親には全部お見通しでした。さて、この問いは心也のこの揺れ動く思いを「六十字以上、七十五字以内」でまとめることが求められています。すべてをまとめると百字を軽く超えてしましますので、必要最低限のことに対する必要があります。ここでは「まずかった」と言った時の気持ちを問われていますので、自分を困らせる父親をちょっとがっかりさせてやろうと思った心也の意地の表れであることと、困惑のもどである心也の揺れる思いを最低限必要な要素として解答を構成してみましょう。

〈解答例〉

- ⑧ <「こども飯」をやめてほしいという思いと、続けてほしいという思いが入り混じり>、⑦ <自分を振り回して困らせる父親に反発する気持ち>